科目名	基礎看護学実習 I	単位数	1	時間数	45			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年			
実習目的	 様々な場で展開される看護を見学し、看護の役割を理解する 協働する医療従事者を知る 看護を受ける患者の思いを知る 							
実習目標	 急激な健康障害が生じた患者における看護の役割がわかる 慢性的な健康障害を持つ患者における看護の役割がわかる 対象に関わる医療従事者の職種と役割がわかる 看護を受ける患者の思いがわかる 							
実習内容	1. 外来受診をする患者における看護の役割が 1) 施設の物理的環境・人的環境がわかる 2) 受診が必要になった理由がわかる 3) どのような診察・治療・処置が行われて 4) どのような看護が行われているかわかる 5) 看護者がどのように記録や報告・報告・ 6) 看護者の思いを知る 2. 入院している患者における看護の役割がわれているかった。 1) 施設の物理的環境・人的環境がわかる 2) 患者がどのように過ごしているかわかる 3) 看護者が行っている治療・処置・検査の 4) 看護者がどのように記録や報告・報告・ 6) 看護者がどのように記録や報告・報告・ 6) 看護者がとのように記録や報告・報告・ 6) 看護者の思いを知る 3. 患者に関わる医療従事者の職種と役割がわた。 1) 患者に関わる医療従事者の職種の役割の 4. 看護を受ける患者の思いがわかる 1) といればこれが思いている。 1) といればこれが思いているが思いている。 1) といればこれが思いている。 1) といればこれが思いている。 1) といればこれがある。 1) といればこれが思いている。 1) といればこれが思いないない。 1) といればこれが思いている。 1) といればこれが思いている。 1) といればこれが思いている。 1) といればこれが思いないにいる。 1) といればこれが思いないないないない。 1) といればこれが思いないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	だい。 連いる がいる 接連いか。 違いがい はいがい がいれば かいる はいがいれば かいる はいがいれば かいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいが	炎をして い る し て	こいるかわかる				
評価方法	1) インタビューなどにより対象が感じてい 評価表に則って評価する	いることや思	いを知	1のことかでき	ବ			

前期で学んだ看護師の役割や多職種が協働している臨地に赴くことにより、看護の実際を体験する実習です。ロールモデルが見つかるといいですね。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位数	1	時間数	45			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年			
実習目的	1. コミュニケーション技術を用いて患者の情報収集ができる 2. 収集した情報をもとに、患者に適切な日常生活の援助ができる							
実習目標	 患者を知るための情報を収集できる 患者の状態が助言でとらえられる 患者の日常生活援助を計画できる 計画にそって実践することができる 実施後、評価し修正することができる 							
実習内容	 患者を知るための情報を収集できる 患者の日常生活行動に関する情報を収集 患者の発達段階や生活歴に関する情報を 患者の状態が助言をもとにとらえられる 患者の健康障害の種類や健康の段階に関現状を把握する 患者に必要な日常生活援助を計画する 計画にそって実践することができる 患者の反応を観察しながら援助を実施する 	を収集する	こついて	助言を受け、	患者の			
評価方法	評価表に則って評価する							

初めて患者を受け持ち、日常生活の援助を実践する実習です。看護の楽しさが実感できるようサポートしたいと思います。

科目名	基礎看護学実習Ⅲ	単位数	2	時間数	90			
担当教員		実務経験	有	履修年次	2 年			
実習目的	看護過程を使って、患者の日常生活の援助ができる							
実習目標	 患者を知るための情報を収集できる 看護上の問題を明確にできる 目標を設定し、具体的な計画を立てることができる 計画にそって実践することができる 実施後、評価し修正することができる 							
実習内容	1. 患者を知るための情報を収集できる 1)患者の日常生活行動に関する情報を収集 2)患者の健康障害の種類や健康の段階に関 3)患者の発達段階や生活歴に関する情報を 2. 情報を整理・分析し、統合し看護上の問題す 3. 目標を設定し、具体的な計画を立てること 1)患者がいつまでにどうなるという目標を 2)目標を達成できるための方法を立てる 4. 対象の反応を観察しながら援助を実施する 5. 援助後、目標、方法に対しての振り返りを 6. 基本技術と日常生活援助を実践する 観察、記録、報告、コミュニケーション、 動かし方、清潔の援助、食事の援助、排泄	する情報を 収集明ら が て る ・ 女 全 、 安 全 、 楽	こし、看	護の方向性を整備、体位の耳	なり方・			
評価方法	評価表に則って評価する							

看護過程を使って看護を実践する初めての実習です。しかし、実際やってみると、いままでその 一部を体験できていたのだと、気づけると思います。対象を全人的にとらえる・考える人となる一 歩を十分体験してください。

科 目 名	地域と人々の暮らし実習	単位数	1	時間数	30			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年			
実習目的	を深める	2. 地域におけるその人らしい個人・家族の健康と暮らしに関わる支援を考える力を身						
実習目標	5. 対象とのかかわりや、実習を通して振り返りができ、自己の課題を明確化するこ							
実習内容	その家族が地域・在宅で暮らすとはどのよう。 1)地域の方のインタビューを通し、対象のききがい等を理解する 2. 地域の様々な人々の暮らしや健康を支えるあるかを知る 1)地域における社会資源を知り、対象への影 3. 看護学生としての自覚と責任をもち、相手できる 1)看護学生としてふさわしい態度を身に着し 4. 実習における自己の役割を果たすことができる 1)実習における自己の役割を果たすことができる	 地域の様々な人々の暮らしや健康を支えるために、どのような支援や社会資源があるかを知る 地域における社会資源を知り、対象への影響がわかる 看護学生としての自覚と責任をもち、相手を尊重した態度で対象と関わることができる 1)看護学生としてふさわしい態度を身に着け、相手を尊重することができる 実習における自己の役割を果たすことができる 						
	5. 対象とのかかわりや、実習を通して振り返 とができる	7.8.00		ソ IAN K型 C 				
評価方法	評価表に則って評価する							

1年生初めての実習となります。皆さんが地域の方々と積極的に交流し、学びを通じて身近な地域への関心と愛着をもってもらえればと思います。加えて自身も地域における生活者であることを自覚しましょう。

科 目 名	地域施設実習	単位数	1	時間数	30	
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年	
実習目的	地域における様々な施設で生活している対象の看護活動の実際を理解し、 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解する					
実習目標	1. 施設における対象の生活状況および特徴と生活を継続するために必要な支援についてわかる 2. 対象の生活を支える様々な職種の役割と、保健医療福祉チームにおける看護職の役割がわかる					
実習内容	1. 受け持ち入所者の状態や状況に合わせた日常 2. 老いや疾病、障がい(害)等の健康上の課題 る 3. 受け持ち入所者の生活を支える家族および構 ついてわかる 4. 地域における施設の役割がわかる	題を持つ人	の生活	を支える支援	·	
評価方法	評価表に則って評価する					

地域包括ケアシステムにおいて、看護は医療機関のみならず、様々な場での提供が求められます。 地域の保健医療福祉チームの一員であることをふまえ、看護職の役割を学びましょう。

科目名	地域・在宅看護論実習 単位数 2 時間数 90							
担当教員	専任教員 実務経験 有 履修年次 3年							
実習目的	地域で療養する人とその家族を理解し、在宅で看護を実践するために必要な基礎的能							
X 6 6 87	力を養う							
	1. 疾病や障害をもちながら生活の場で療養する対象を理解する							
	2. 在宅で療養する対象の訪問看護の目的を理解し、看護の実際を理解する							
実習目標	3. 在宅における終末期にある対象の看護の実際を学ぶ							
	4. 地域での看護活動の実際から、在宅療養者を支えるための保健・医療・福祉の連							
	携を知り、看護の役割がわかる							
	1. 対象の在宅看護に至った経過がわかる							
	2. 対象の現在の健康状況と生活状況について情報収集ができる							
	3. 対象の全体像から在宅で療養する上での対象とその家族の問題が理解できる							
	4. 対象の意思を尊重した実現可能な目標設定ができる							
	5. 対象の生活状況を考慮した具体策が立案できる							
	6. 在宅における生活環境に応じた援助が考えられ、指導者と共に実施できる							
	7. 在宅における診療の補助技術の実際を通して援助の工夫と応用を知る							
	8. 在宅における対象に上記の6・7について指導の実際を知る							
実習内容	9. 在宅における終末期にある対象の援助の実際から、在宅での終末期の看護を考え							
	ることができる							
	10. 在宅看護における継続看護の実際を知る							
	11. 地域で療養を継続するための保健医療福祉の連携に対して							
	1) 訪問ケースを通して、保健医療福祉の連携と協働がどのように行われているか							
	わかる							
	2) 保健医療福祉チーム内で情報を共有することの必要性がわかる							
	3) 訪問ケースから社会資源の活用状況を知る							
	4) 訪問ケースを通して保健医療福祉チームの中での看護師の役割を理解する							
評価方法	評価表に則って評価する							

疾病や障がい(害)があっても、地域でその人らしくすごすとはどのようなことなのか。 五感を使って感じ考え、学び、訪問看護の醍醐味を体験しましょう。

科 目 名	多職種連携実習	単位数	1	時間数	30			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年			
実習目的	入院から退院までの多職種の連携・協働を知	入院から退院までの多職種の連携・協働を知り、看護の役割を理解することができる						
実習目標	 対象の受けている治療・処置・検査に応じた看護がわかる 入院から退院までの多職種の連携・協働、看護の役割がわかる 							
実習内容	 対象の受けている治療・処置・検査に応じり、外来、検査室、内視鏡室、手術室、集中置・検査の実際を知る 検査・治療・処置の前・中・後の看護が3)緩和ケア病棟におけるケアの実際を知る4)緩和ケアにおける看護がわかる 入院から退院までの多職種の連携・協働、1)外来、検査室、内視鏡室、手術室、集と役割がわかる 多職種の連携・協働の実際を知る3)多職種の中での看護の役割がわかる 	治療室等でいわかるの	対象の	\ &				
評価方法	評価表に則って評価する							

入院から退院まで対象の受けている治療・処置・検査・緩和ケアに応じた看護を知り、多職種の 連携・協働、看護の役割を理解していきましょう。

科 目 名	老年看護学実習	単位数	2	時間数	90				
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年				
実習目的	老化がもたらす影響を理解し、健康障害のある老年者の健康問題を解決できる								
	1. 老化と健康障害のある患者の健康問題を把握できる								
	2. 老年期の発達段階に応じた援助がわかる								
実習目標	3. 対象の状態に応じた援助ができる								
	4. 治療・処置を受ける患者に応じた援助ができ	きる							
	5. 看護の継続の必要性や多職種との連携・協働	が理解で	きる						
	1. 老化と健康障害のある患者の健康問題を把握できる								
	1) 患者の疾病の特徴を理解できる								
	2) 老化がもたらす日常生活行動・健康状況と	生活背景	• 生活習	冒慣との関係か	「理解で				
	きる								
	2. 老年期の発達段階に応じた援助がわかる								
	1)健康障害が発達課題や患者の生き方にどのように影響するかわかり援助ができる								
	2) 老年者である対象に尊重した態度で接する	らことができ	きる						
	3) コミュニケーションの障害に応じた接した	5、聴き方7	ができる	5					
	4) 老年者の立場を考え自尊心を大切にした技	援助ができ ん	3						
	3. 対象の状態に応じた援助ができる								
	1) 老年者の健康障害を把握し、回復期または	は慢性期の組	経過に原	じた援助がて	ぎきる				
	(1)回復期にある老年者の援助ができる								
	①障害された機能の回復と残存機能の維			援助ができる					
実習内容	②廃用症候群・二次障害を予防するため		きる						
	③日常生活の自立に向けての援助ができ	る							
	(2)慢性期にある老年者の援助ができる								
	①廃用症候群・二次障害を予防するため								
	②残存機能を活用した生活を送るための		් ති						
	(3)健康障害から起こる各症状に応じた援助		と道のご	2.亜州がわかって	•				
	(4)対象の退院後の生活について家庭及びす 4. 治療・処置を受ける患者に応じた援助ができ		旧等の火	び安注かわかる)				
	4. 冶療・処量を受ける患者に応じた援助ができ 1) 患者の心身に及ぼす影響がわかり援助がで								
	1) 思名の心身に及ばす影音がわかり援助がで 5. 看護の継続の必要性や多職種との連携・協働		きろ						
	0. 有暖の極視の必要性で多報程との建場。								
	2) 自立・社会復帰に向けての看護の継続がわ		ω						
	3) 老年者及び家族を支援する多職種がわかる								
	3) 名中有及び家族を文援する多職種がわかる 4) 多職種の人々との連携・協働の必要性がわかる								
 評価方法	評価表に則って評価する								
山川川八八									

老年者の特徴を捉え多職種と連携・協働し健康問題を解決するために必要な援助を実践しましょう。

科 目 名 	成人・老年看護学実習Ⅰ	単位数	2	時間数	90			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年			
実習目的	成人・老年期の特徴を理解し、侵襲からの回行る	复過程にあ	る対象(の健康問題が傾	解決でき			
実習目標	4. 患者の受けている治療・処置・検査に応じ							
実習内容	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる 1) 対象を病像・生活像・社会像の3側面から 2) 看護上の問題と看護の方向性を明らかける 4) 目標を達成するための具体的なできる 5) 計画に沿って実施することができる 6) 実施後目標の達成度を評価した援助ができる 1) 身体・精神・社会面から発達との状態に応じた援助が同じた援助がうににいり、できるが発達課題達成があるにいいのででででいる。 2. 患者の発達理解し、こるをはいるをはいいのでは、できるが理解といるの健康障害が発達課題をしているをはいいのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	でこて る で響じたが復・ に援、た考役 こきとる きすた援理過周 あ助援援え割 とるがこ るる援助解程手 わが助助、を がでと かりがでに術 せですが援理 できた	きが つがごきあり にきるごかみ きるで かでき援る・ 援るこきがし るき りきる助患急 助 とるで行る のまり かんしん	接り での増 で で るがでも がの あいの まままま きょう でままま きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう かいしゅう かいしゅう かいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしょう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしょう はいしゅう はいしょう はいしゅう はいしょう はい	<i>-</i> る			
評価方法	評価表に則って評価する							

成人・老年期の特徴を理解し、侵襲からの回復過程にある対象の健康問題を解決していきましょう。

科 目 名	成人・老年看護学実習Ⅱ	単位数	2	時 間 数	90			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年			
実習目的	成人・老年期の特徴を理解し、急激に状態の変化で	成人・老年期の特徴を理解し、急激に状態の変化する対象の健康問題が解決できる						
	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる							
	2. 患者の発達段階に応じた援助ができる標 3. 対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた援助ができる							
実習目標								
	4. 患者の受けている治療・処置・検査に応じた援	援助ができ	る					
	5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割	削を理解し	行動	ができる				
	1. 対象の健康問題を明確にし援助できる							
	1)対象を病像・生活像・社会像の3側面からと	こらえるこ	とが	できる				
	2) 看護上の問題と看護の方向性を明らかにでき	きる						
	3) 目標が設定でき、その優先順位をつけること							
	4) 目標を達成するための具体的な計画を立てる	ることがで	きる					
	5) 計画に沿って実施することができる							
	6) 実施後目標の達成度を評価し、修正できる							
	2. 患者の発達段階に応じた援助ができる	- 7						
	1) 身体・精神・社会面から発達段階が理解でき		П	控いてもて				
	2)健康障害が発達課題達成にどのように影響す 3.対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた							
	3. 対象の健康障害を理解し、対象の状態に応じた 1) 患者の機能障害から起こる各症状に応じた援							
実習内容	(1)現れている症状や今後おこりうる症状が理			できる				
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	2) 患者の健康障害を把握し、急性期・終末期に							
	(1)生体機能が急激に変化している急性期・周				の援助が			
	できる				•••			
	(2)終末期にある対象の看護ができる							
	3) 危機的状況と不安な状況にある対象への援助	かができる						
	(1)対象及び家族の持つ不安について考え、援	援助するこ	とが	できる				
	4. 患者の受けている治療・処置・検査に応じた援	爰助ができ	る					
	1)治療・処置・検査が心身に及ぼす影響を考え	上、援助で	きる					
	5. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割	削を理解し	行動	ができる				
	1) 必要な時に連絡・相談・報告ができる							
	2) 多職種の人々との連携・調整に参加し情報提	是供するこ	とが	できる				
	3) 患者の退院後の生活について、家族及び支援	援者の援助	がで	きる				
評価方法	評価表に則って評価する							

成人・老年期の特徴を理解し、急激に状態の変化する対象の健康問題を解決していきましょう。また、多職種の人々との連携・協働に参加し、対象の退院後の生活について家族および支援者の援助を考え、実践していきましょう。

					2020 —			
科目名	小児看護学実習	単位数	2	時間数	90			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年			
実習目的	小児の特徴を理解し、小児看護を実践する基礎	的能力を均	音う					
実習目標	 小児の成長発達段階が理解でき、発達に応じた援助ができる。 健康な小児に対する看護の役割がわかる。 小児の健康障がいを理解し、診断・治療を助ける援助ができる。また、療養生活に必要な援助ができる。 入院を必要とする小児と家族に対し、必要な援助に参加できる。 健康障がいをきたした小児と家族に対する看護の役割がわかる。 地域の対象を理解し、地域における小児看護の役割についてわかる。 児の障がいや入所生活を理解し、必要な援助ができる。 保健医療福祉チームとの協働の中で、障がいを持つ小児に対する看護の役割がわかる。 							
かる。 1. 形態的・精神的・社会的側面から成長発達が理解できる。 2. 発達段階から日常生活の自立度が理解できる。 3. 自立度に応じた日常生活援助ができる。 4. 園児への援助や保育者からの学びから、健康な小児に対する看護の役割が理解できる。 5. 小児の病態を理解し、対象に必要な援助ができる 6. 外来看護師の役割が理解できる。 7. 児の入院目的を理解し、必要な援助がわかる。 8. 安全・安楽に配慮しながら、小児の援助に参加できる。 9. 小児における家族の役割が理解でき、家族を含めた援助ができる。 10. 援助の実践や看護師との関わりを通して、急激な健康障がいをきたした小児と家族に対する看護の役割が理解できる。 11. 看護師、リハビリ、養護教諭などの関わりから、入所児の障がいの程度がわかる。								
評価方法	評価表に則って評価する							

小児の実習は、子どもと関わることで成長発達や障がいについて考えることができます。 積極的に関わってくださいね。期間の短い実習になりますので、復習をしっかりやってきましょ**う**。

					<u> </u>			
科 目 名	母性看護学実習	単位数	2	時 間 数	90			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	3 年			
実習目的	 周産期にある母子の身体・心理的な特徴と健康状態への理解を深めるとともに、 母性看護の基礎的な実践能力を養う 地域社会に根ざした生涯にわたる母性への支援について理解を深めることが できる 							
実習目標	 妊娠・分娩・産褥・新生児期の心身の変化を理解し、対象に必要な援助を考える事ができる 母親役割の獲得に向けての援助がわかる 母児の看護を通じて、母子関係・家族関係についての理解を深める 周産期における看護の役割がわかる 周産期にある母児との関わりから生命に対する自身の考えを明らかにする事ができる 性教育、妊婦相談、産後ケア等地域における活動の見学を通して地域の対象を理解し、地域における母性看護の役割について考えることができる 看護学生としての自覚、責任を持ち、看護を実践する為の態度を習得できる 							
実習内容	1.1) 妊娠経過に応じた特徴の理解と妊婦の 2) 分娩経過の理解と産婦の看護の活動の理解と選別の 3) 産褥の経過、新生児の計えてのの 3) 母親への過でではいまでではいまり、 4.1) 母児の早期接触への援助がわれる 4.1) 母児の早期接付けでいるのの 4.1) 母児の経続看でいますでは 4.1) 母児の経続看でいますでは 4.1) 母児のと社ではますがいる 4.1) 母児のと社ではまずではますがいますがでいますがでいますがである。 5.1) 間感じたすると共れによるのは、 2) 地域の対象者がわいて担解をはないますがでは、 5.1) 地域の対象者がいて理解を分のでは、 6.1) 地域の対象とでは、するのでは、 3) 他学生としての自覚を持ち、 7.1) 看護学生としての自覚を持ち	いりつう かり 考るズ が再か褥かと る割えこが で考る婦るが かたとわきで かこがかるき	新 き かとでる る明る	の看護がわか 確にできる	る			
評価方法	評価表に則って評価する		· · · ·					

生命誕生の神秘さ、偉大さ、そして一人の人生の出発点(スタート)を看護する意味を学んで欲しいです。さらに、一人の女性が母親となっていく過程にかかわり、母親役割の獲得、人間関係の基盤である母子関係を結んでゆく過程にもかかわって欲しいと思います。

人の始まりを知ることは、人を尊む看護の基本-もと-になることを実感できるよう願っています。

科目名	精神看護学実習	単位数	2	時間数	90	
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2年	
	1. 精神障害者とのかかわりを通して看	護者の役割を	学ぶ。			
実習目的	2. 精神障害者が社会でどのように受け入れられ生活しているのか学ぶ。					
	3. コミュニケーションにおける対象と自己への理解を深める。					
実習目標	1. 精神障害と症状を理解し対象に必要な看護がわかる。					
	2.精神科病棟の特徴を知り、治療的環境について理解できる。					
	3. 精神障害者を取り巻く精神保健医療福祉チームの活動を知り、看護の役割がわかる。					
	4. 精神障害者が地域で生活していく際に必要な精神看護の役割を考えることができる。					
	5. 精神障害者との関わりを振り返り (プロセスレコード)、対象と自己への理解を深め					
	ることができる。					
	6. 看護学生として適切な行動をとり、積極	的に学ぶこと	ができ	る。		
実 習 内 容	1.精神障害と症状を理解し対象に必要な					
	1)コミュニケーションを通して情報収集することができる。					
	2) 受け持ち患者の全体像が把握できる。					
	3)受け持ち患者に必要な日常生活援助がわかる(または実施する)。					
	2. 精神科病棟の特徴を知り、治療的環境					
	1)精神保健福祉法における患者の処遇	に関する事項	をふま	え、病棟の特	徴が理解	
	できる。	+->				
	2)精神障害者にとっての治療的環境に	•	•	U	÷ul 1 % l = 1 .	
	3.精神障害者を取り巻く精神保健医療福祉チームの活動を知り、看護の役割がわか					
	│ る。 │ │ 1)作業療法やレクリエーション療法・就労支援:	注動に参加し	夕啦:	ほし手継の処	割がわか	
	171F未保広で2771=757保広・机力又仮。 る。	位到に参加し	、多鸭作	性と 11 時の1文	引り、インツ、	
	○ ○ ○ 4. 精神障害者が地域で生活していく際に	必要か特油看	誰の役	割を老えるこ	レができ	
	る。	2.女体作作	皮の区	1167760	C 13 · C C	
	0°	支援R型事業所	f)で実	習を诵して、	その施設	
	を知り、看護の役割を考えることが					
	5. 精神障害者との関わりを振り返り(プ				-	
	深めることができる。		. , . ,			
	1)対象との関わりの場面を再構成し、	自己の感情や	思考に	ついて、認識	と考察が	
	できる。					
	2) 自己の言動が対象に与える影響につ	いて、考察で	きる。			
	6. 1) ~8) ※実習要項参照					
評価方法	評価表に則って評価する					
н іш / /Д	HI IMA C LYST C EMIT O					

自己の言動が患者に与える影響をしり、自分の傾向を知ってください。看護者としての自己と真摯に向き合えるようになることを期待します。

科目名	統合実習 単位数 2 時間数 90					
担当教員	専任教員 実務経験 有 履修年次 3年					
実習目的	保健医療チームの一員として看護を実践し、専門職業人としての看護実践力を養う					
	1. 複数の患者の看護を、優先順位と時間の管理を考慮して実践できる					
	2. 看護チームで協働しながら、看護を考え、実践できる					
	3. 病棟師長の役割を理解し、看護管理の実際を知る					
実習目標	4. 夜間の患者や病棟の様子を知ることにより、患者・看護・管理について総合的に					
	理解する					
	5. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める					
	6. 看護観を考えることができる。					
	1. 複数の患者の看護を、優先順位と時間の管理を考慮して実践できる 1) 受け持ち患者の状態を把握し、必要な看護が計画できる					
	2) 優先度の判断をしながら援助が実施できる					
	2. 看護チームで協働しながら、看護を考え、実践できる					
	1) 学生チームの受け持ち患者の状態を共通理解することができる					
	2)学生チームリーダーとして、必要なマネージメントができる3)チームメンバーとして、必要な報告・連絡・相談ができる4)看護の方針や方法について、チームで追求し、検討できる。3. 病棟師長の役割を理解し、看護管理の実際を知る					
	1) 病床管理・安全管理・物品管理・職員の管理・看護の管理・他部門との連携な					
実習内容	ど、病棟管理の実際がわかる					
	2) 看護の継続性が理解できる					
	4. 夜間の患者や病棟の様子を知ることにより、患者・看護・管理について総合的					
	理解する · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
	1) 面会の状況、患者の変化など、夜間の患者の様子が理解できる					
	2) 食事介助、排泄介助、イブニングケアなど、就寝に向けての看護を理解するこ					
	とができる					
	3) 夜間の病棟管理体制について、理解できる					
	5. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める					
	1) 受け持ち患者について多職種の人々と情報交換ができる 2) 多職種の人々とのカンファレンスに参加し、情報提供することができる					
評価方法	評価表に則って評価する					

これまで身につけた問題解決能力をもとに、より臨床に近い実習形態を体験してください。今までの経験を思う存分発揮し、看護学生最後の実習を楽しんでください。